

「医療ソーシャルワーカー情報提供書」活用手引き

「連携」「情報共有」を行う際、医療ソーシャルワーカーは“生活者”としてのクライアント像を捉え、クライアントの尊厳ある生活の実現を目指す。「連携」「情報共有」では、支援者から次なる支援者へと、切れ目のない継続的な支援がなされる事を目的としている。この目的の達成へ向けたひとつのツールとして学術部では「医療ソーシャルワーカー情報提供書」を作成した。

作成した「医療ソーシャルワーカー情報提供書」は、ソーシャルワーク支援において大切にすべき視点を中心に盛り込まれており、いかなる機能の機関であっても普遍的に使用できるよう配慮したものとなっている。ニーズに沿った支援を継続するために、ソーシャルワーカーの援助過程が見える書式であることを重要視した。

<項目設定の目的ならびに記入のポイント>

【生活歴】

目的

本人・家族の生活を理解するには、過去～現在～未来という時間の流れの中の、「いま・ここ」という視点が必要である。生活歴は、本人や家族の価値観が見える重要な情報であり、その価値観は自己決定の根拠となることも多い。

記入のポイント

本人、家族の生活状況のみを記載するのではなく、患者家族のライフスタイルや行動パターン、家族独自のルール等、生活に影響する要因を含め、発症・受傷前の生活状況がより具体的に伝わるよう記載する。

【本人・家族の意向】

目的

本人・家族の意向を中心にソーシャルワーク援助は展開されるものであり、「自己決定」「主体性の尊重」を重要視する。各々のステージで支援が途切れぬよう、本人・家族の意向を汲み取り、次なる支援者へと繋ぐことが必要である。

記入のポイント

本人・家族の意向を端的に記すのではなく、その意向へと決定づけた背景について記入する。また、多くの場合、治療や生活状況は変化していくため、短期的および長期的意向というように、時間の経過にそった意向を確認し記入する。

【SW 援助内容】

目的

患者・家族の意向に沿って課題を抽出し、目標を明確化した後に展開されるソーシャルワーク援助において、何を重要視したかということと、その根拠は SW の専門性によるものである。本人・家族主体の意向にそった援助が継続されるよう、次なる支援者へ援助過程を伝えることは重要である。

記入のポイント

アセスメントを重ねる中で抽出された課題に対し行ったソーシャルワーク援助において、自身が重要視した点やその根拠を示す。また、問題の緩和・解決ができた援助、出来なかった援助について、その要因はその後の支援のヒントとなるであろうことから、記載すること。

【予測される今後の方向性】

目的

本人・家族がかかえる課題は経過とともに変化するため、支援の継続や再アセスメントが必要な状態で次なる支援者へ引き継ぐ場合が多い。現段階での課題を整理し、今後予測されることを次の支援者へ繋ぐことは、患者・家族のよりスムーズな課題・問題の緩和・解決にとって重要である。

記入のポイント

- ・ 疾病、障がいの現状や今後の変化を踏まえ、生活の場や様式について本人・家族がどのような方向性を望んでいるかについて記入。しかし、その方向性が現実的ではなく実現困難な場合に、支援者が本人・家族へどのように説明し、どの様な方向性を提示したかについて記入すること。
- ・ 今後の方向性とそれを決定づける条件との関係性について記入する。(例：治療、家族状況、経済的状況、社会資源などが、～となれば方向性はこのように変わる可能性あり、というように)

【その他特記すべき事項】

記入のポイント

- ・ 治療の継続や生活そのものの継続が困難であるような課題がある場合には記入する。(例：医療に対する不信感、家族との関係不和など)
- ・ 手続き中もしくは今後申請が必要となる各種制度等があれば記入する。
- ・ その他、上記項目に含まれないが、支援のポイントとなる事項があれば記入する。